

# レセプトにみる感染防止対策と 地域連携の現状

---

全国健康保険協会 静岡支部  
企画総務グループ 名波直治

**第22回  
日本医療マネジメント学会学術総会  
COI開示**

**発表者名：名波 直治**

**演題発表内容に関連し、発表者に開示すべき  
COI関係にある企業はありません。**

## 【目的】

2007年に良質な医療を提供する体制の確立を図るため医療法等の一部改正が行われ、すべての医療機関において、院内感染対策の体制確保が法的遵守項目として位置づけられた。これを受け、2010年診療報酬改定において、感染防止対策加算が新設された。

その後、2020年診療報酬改定においては、同加算の算定要件の一つである抗菌薬の適正使用について、従来の「適正使用に向けた監視するための体制」から、「適正使用の推進」へと、より積極的な取り組みが算定要件として定められている。

しかし、本邦では、地域における感染防止対策加算と抗菌薬使用量の現状を調査した報告はまだ少ない。

そこで本研究では、静岡県内全体の感染防止対策加算算定状況から抗菌薬使用量をAUD (antimicrobial use density) 評価で行い、また先行研究が指標として多く用いているMRSA感染症の発生状況を抽出し、感染防止対策加算1、2を算定する医療機関群の実態を調査するものである。

## 【手法】

### ①地域における感染防止対策加算の算定状況

感染防止対策加算		算定1、2算定機関数	
2016年	加算1	33施設	加算2 55施設
2017年	加算1	33施設	加算2 53施設
2018年	加算1	34施設	加算2 49施設

医療機関（病院）単位で  
とりまとめ  
加算算定機関数/所在する機関数

### ②感染防止対策加算算定施設における抗菌薬使用量評価(外来)

2018年度レセプトより抗菌薬使用量をAUD  
( antimicrobial use density ) で評価し、  
医療機関ごとに取りまとめ

感染防止対策加算1、2群における  
A U Dを比較  
(Mann-Whitney Utest)

### ③感染防止対策加算算定施設におけるMRSA発生状況（入院）

2018年度レセプトよりM R S Aを含む病名  
記載のある入院レセプトを医療機関別に抽出

$$\text{M R S A 罹患者数} \div \text{延べ入院患者数} \times 1,000$$

感染防止対策加算1、2群における  
1,000人当たり罹患者数を比較  
(Mann-Whitney Utest)

# 結果① 地域における感染防止対策加算算定の状況

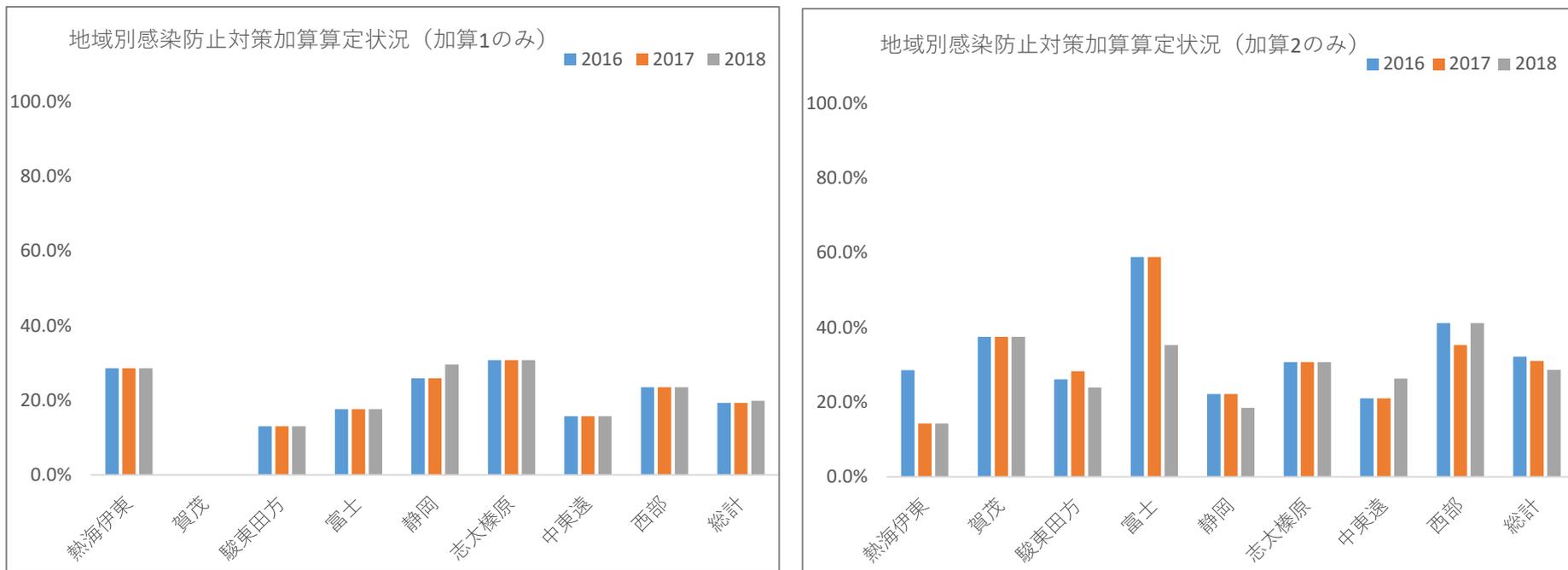


Fig.1 静岡県2次医療圏別 感染防止対策加算1、2算定施設割合

地域における感染防止対策加算の算定状況を、施設別に抽出したのち、二次医療圏別にまとめ2016年から2018年における経過を追った。

加算1においては、3年間で大きな変動はないが、加算2においては富士医療圏において算定施設が減少しており、全体としても減少傾向であった。

## 結果② 感染防止対策加算算定施設における抗菌薬使用量評価

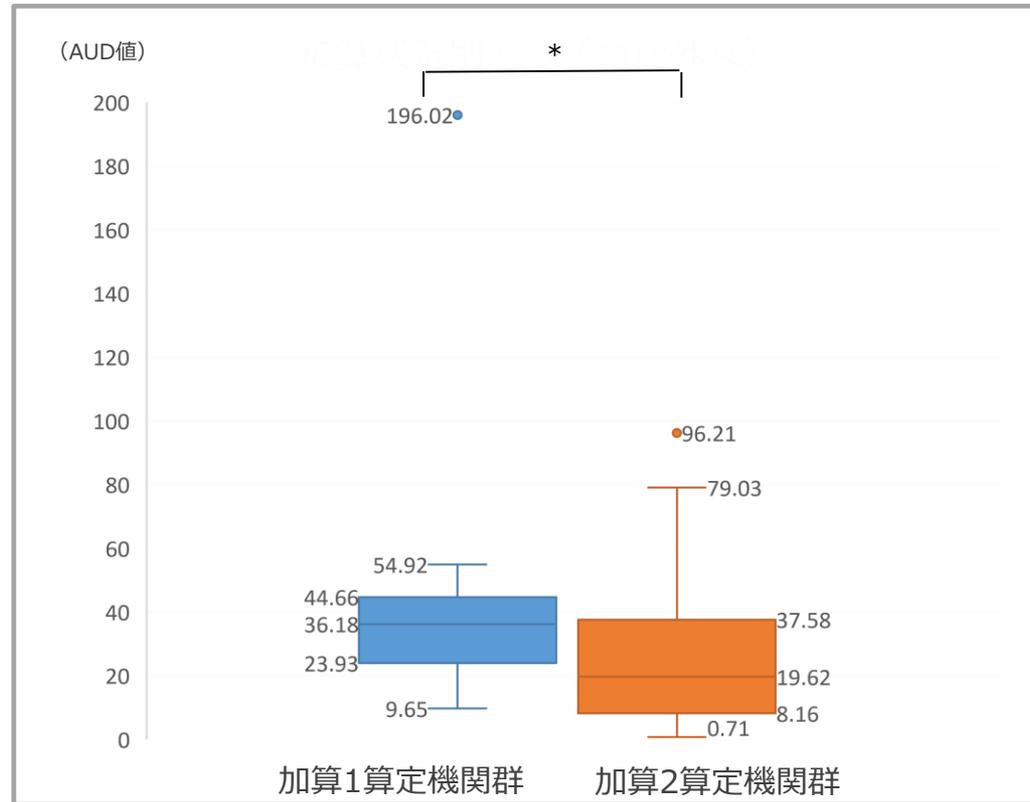


Fig.2 感染防止対策加算1、2算定機関におけるAUD

感染防止対策加算の要件としては、院内における抗菌薬適正使用が掲げられている。本研究では、抗菌薬使用量を国際指標であるWHOのAUD (antimicrobial use density) を用い外来における使用量を評価した。感染防止対策1の算定群が2の算定群に比べ抗菌薬使用量の中央値が有意に大きい。(Mann-Whitney U test  $p < 0.05$ )

### 結果③ 感染防止対策加算算定施設におけるMRSA発生状況（1,000人当たり）

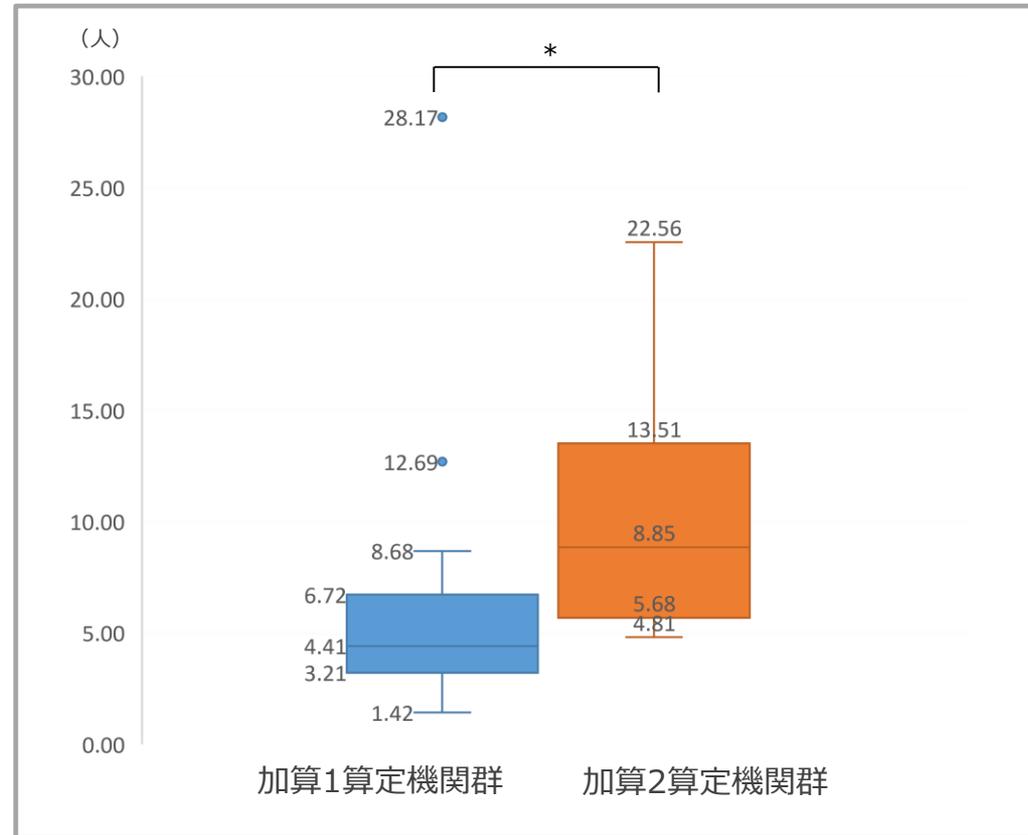


Fig.3 感染防止対策加算1、2算定機関におけるMRSA感染症罹患患者数（1,000人当たり）

施設別に1,000人当たりのMRSA発生数を抽出し、感染防止対策加算1の算定群と加算2の算定群とで比較した。

加算1群が加算2群に比べ、MRSA感染症の発生数（1,000人あたり）は有意に低かった。（Mann-Whitney U test  $p < 0.05$ ）

## 【考察】

・感染防止対策加算については、地域全体において3年間の経過でも変動は大きくない。また、算定要件から外れ、感染防止対策算定施設が減少している地域も見られた。

加算1のほうが要件の難易度からか、急性期を備えた大規模医療機関での算定が大半を占めるのに対し、加算2は療養型の医療機関が多い傾向であった。

・2020年の診療報酬改定では、加算1を算定している機関における抗菌薬適正使用支援加算の要件として、従来の入院における対策に加え、外来における抗菌薬適正使用等の対策も新設された。

感染防止対策における抗菌薬の適正使用の重要性が大きくなっており、これを軸とした地域連携が期待されている。

本研究では、抗菌薬の使用量については2018年度のAUDで評価を行ったが、2020年の診療報酬改定を受け、今後、感染防止対策加算1と抗菌薬使用量の施設動向を追って調査していく。